

チャレンジ！！オープンガバナンス 2023 市民／学生応募用紙

自治体提示の地域課題名（注1）	No.	自治体提示の地域課題名	自治体名
チームがつけたアイデア名（公開）（注2）	2	学生が作る!こどもまんなかの取組#こどもまんなかやってみた あそびば asoBiBa～鶴岡の高校生と一緒に新しいまちのイベントを作る～	山形県鶴岡市

（注1）地域課題名は、COG2023 サイトの中に記載してある応募自治体提示の地域課題名を記入してください。

（注2）アイデア名は各チームで独自にアイデアにふさわしい名前を付けてください。これは自治体提示の地域課題名とは別です。

1. 応募者情報 下の欄のうち赤字部分は削除して該当する番号を記入のこと

チーム名（公開）	昭和女子大学 鶴岡再発見！プロジェクト 2023		
チーム属性（公開）	1. 市民、2. 市民／学生混成、3. 学生	3	
メンバー数（公開）	5名		
代表者（公開）	山瀬実乃莉		
メンバー（公開）	阿河彩美衣、川原里穂、林咲季、水上綾香		

【注意書き】※ 必ず応募前にお読みください。

＜応募内容の公開＞

1. アイデア名、チーム名、チーム属性、チームメンバー数、代表者と公開に同意したメンバー氏名、「アイデアの説明」は公開されます。
2. 公開条件について：
「アイデアの説明」でご記入いただく内容は、クリエイティブ・コモンズの CC BY（表示）4.0 国際ライセンスで、公開します。ただし、申請者からの要請がある場合には、CC BY-NC（表示—非営利）4.0 国際ライセンスで公開しますので、申請の際にその旨をお知らせください。いずれの場合もクレジットの付与対象は応募したチームの名称とします。
（具体的なライセンスの条件につきましては、<https://creativecommons.org/licenses/by/4.0/legalcode.ja>、および、<https://creativecommons.org/licenses/by-nc/4.0/legalcode.ja> をご参照ください。また、クリエイティブ・コモンズの解説もあります。<https://creativecommons.jp/licenses/>）
3. 上記の公開は、内容を確認した上で行います。（例えば公序良俗に違反するもの、剽窃があるものなどは公開いたしません）
4. この応募内容のうち、「自治体との連携」は、非公開です。ただし、内容に優れ今後の参考になりうると判断したものは、公開審査後アドバイスの段階で相談の上公開することがあります。

＜知的所有権等の取扱い＞

5. 「アイデアの説明」中に、応募したチームで作成・撮影したものではない文章、写真、図画等を使用する場合、その知的所有権を侵害していないことを確認してください。具体的には、法令に従った引用をするか、知的所有権者の許諾を取得し、その旨を注として記載してください。「自治体との連携」中も同様をお願いします。
6. 「アイデアの説明」中に、人が写りこんでいる写真を使用している場合、使用している写真に写りこんでいる人の肖像権またはプライバシーを侵害していないことを確認してください。

＜チームメンバー名簿＞

チームメンバーに関する情報を最終ページに記載して提出してください。（2. の扱いによる代表者氏名を除き、他のメンバーに関する情報は本人の同意があるものを除き COG 事務局からは非公開です。詳細は最終ページをご覧ください。）

アイデアの説明が肖像権・著作権等を侵害していないことの確認

確認後 OK なら右に○印を記入➡○

2. アイデアの説明（公開）

(1) アイデアの内容（公開）

(1) アイデアの内容、(2) アイデアの理由、(3) 実現までの流れ、の三項目に分けて記入してください。

必要に応じて説明の途中に図表を入れていただいて結構です。

(1) アイデアの内容（公開）

アイデアは、対象とする課題解決のために、何をする社会的な活動（サービス）なのか、をわかりやすく示してください。これが将来実現した場合、魅力的で新規性があり、実践したくなり、活用してみたいなる、そしてその結果として、課題が解決される、そんなわくわく感のあるアイデアを期待します。2ページ以内でご記入ください。

<応募チームとして解決したい課題のポイントはこれです！をごく短く以下に書いてください>

<解決したい課題のポイント>

- ・高校生の居場所が少ない
- ・中高生の遊び場が少ない

<以上の課題解決のために「何を」するアイデアか、それを「誰が」「いつ」「どこで」「どのように」するかをわかりやすく書いてください> <アイデアが具体的に実行される場面を想定してください。>

<よいアイデアを生むには関連データの分析確認とデザイン思考によるアイデアを使う人への共感が原点です>

① 提案の概要

鶴岡の高校生と一緒に、鶴岡の子ども達の望む遊びの場を創出！

東京の大学生×鶴岡市の高校生が協働してイベントの企画、実施を行う実行委員会(名前：asoBiBa)の創設&運営。

—asoBiBa≒新たな遊び場—

私達は「遊び」を「活動自体を楽しむこと」と定義する。企画立案などを通して、「(鶴岡の様々な人々と関わり、鶴岡の魅力を知り)自分たちでイベントを作り上げる過程を楽しむ場所≒新たな遊び場」を作りたいという思いから実行委員会を asoBiBa と命名した。

—定期的な活動の場が居場所になる—

この実行委員会での活動を通して、高校生と大学生が定期的に集まり、目的をもって共に活動することで家と学校以外の第3の居場所を生み出すことができる。また、既に居場所として活用している地域のコミュニティセンター、子ども達の支援を行っている NPO 団体明日のたね、商店街のまちづくりスタジオ鶴岡 Dada などの施設を活用することで、地域との繋がりを深めたい。

—この提案に対する想い—

私たちはこの提案をするにあたり鶴岡にて事前研修を行った。その際に、鶴岡を発信したい人、活性化させたい人など、様々な魅力のある地域の方々に出会い、鶴岡への熱い想いに心揺さぶられた。例えば、鶴岡の漁業や地域を活性化させるために、磯が二釣り体験を開催したり、天然小鯛の焼き干しを使った鯛だししょうゆを新たに開発したりしている「ゆらまちっく」。そして、庄内の豊かな食文化に魅せられ、庄内柿のエナジーバーを開発する「SHONAI SPECIAL」、くらしと観光を融合させる 100 年キッチンの創設に尽力した「ANA SHONAI BLUE Ambassador」。このような魅力ある地域の方と鶴岡の子ども達が知り合えていない、その現状を変えたいと思った。だからこそ、素敵な活動を行っている方々と高校生をイベント開催することによって引き合わせることで、地元のすばらしさを高校生に実感してほしいと思った。

② 提案の背景

現在日本では急速な少子化と、それによる人口減少が進んでいる。地方では都心に比べこれらが加速度的に進んでおり、人口減少と急速な少子化は早急に解決すべき課題である。

この少子化による人口減少の現状打開のために、政府が打ち出した考えが「こどもまんなか社会」である。

2. アイデアの説明（公開）

(1) アイデアの内容（公開）

「こどもまんなか社会」とは？

・内閣府こども家庭庁が最初に提唱した概念であり、「常にこどもの最善の利益を第一に考え、こどもに関する取組・政策を我が国社会の真ん中に据える社会。」を指す。日本のこどもを取り巻く多岐に渡る課題を解決するために政府が掲げた考え方。こどもまんなか社会では、常に将来のこどもたちにとって最も良いことはなにか、こどもと一緒に考えることを目標としている。

「こどもまんなか社会」という概念が生まれた背景

・少子化とそれに伴う人口減少を筆頭に、日本のこどもを取り巻く課題は多岐に渡る。政府はこれに対し、様々な取り組みをしてきたが少子化とそれに伴う人口減少に歯止めがかかっておらず、望ましい成果が得られていないのが現状である。そこで政府はこれまでの大人が中心となってこどもへの政策立案を行っていた姿勢から、こどもの視点に立った政策立案を行う姿勢へと転換することを決定した。

鶴岡市でも、この「こどもまんなか社会」という新たな考えに基づいて、こどもが生活しやすく、楽しいと思いつながりながら過ごすことができ、結果として自発的に鶴岡に集まってくるような(鶴岡でこども時代を過ごせてよかったよね！と思えるような)まちづくりを目指している。私達はこの鶴岡市を、こどもにとって住みよい、こどもにとっての最善の利益を追求する(以下こどもまんなかと略称)まちにするための一つの施策として、当事者であるこどもによる、こどものためのイベントを実施する実行委員会の創設を提案したい。

鶴岡市にて2023年に中高生に「つるおか若者意識調査 2023」から、若者が地域に対して抱く課題のなかで居場所のなさ、遊び場のなさが目立っていた。そこで、**居場所があり遊び場があるまちづくりが鶴岡にとってのこどもまんなかのまちづくりとなると考え、こどもが自らの手で遊び場を創出する実行委員会の創設を提案する。**

③アイデアの内容

東京の大学生×鶴岡市の高校生が協働してイベントの企画、実施を行う実行委員会（asoBiBa）の創設&運営。

【asoBiBaの目的】

asoBiBaのメンバーが鶴岡の魅力を再発見、発信する。

【企画するイベントの詳細】

イベントのイメージをしやすく目的・対象者・開催場所についてはプロジェクトメンバーが指定をするが、イベントの企画は高校生と協働して一緒に行う。

・目的：高校生に身近な商店街の課題について知ってもらい、商店街の活性化を目指す。

・対象者：鶴岡の小学生から高校生　・場所：鶴岡銀座商店街

・イベントの具体例

・謎解きゲーム

年齢別に難易度の分かれた、商店街や鶴岡に関するクイズが書かれた地図を持ち、地図に記されている商店街のお店を訪ねるクイズラリーイベント。全てのクイズに正解すると、商店街で使える商品券がもらえる。イベントをきっかけに普段はいることのない商店街のお店の魅力を発見することができ、商店街の利用者の増加を図る。

・空き家で秘密基地作ってマルシェ

商店街にある空き店舗を利用して、地元のこどもたちと一緒に空間をデザインして秘密基地を作る。また、できた秘密基地を利用してこども向けのマルシェを行うことで、お金について学ぶことができると同時に、商店街の活性化を図る。マルシェに出品する商品は、実行委員会がこども達の喜びそうな商品を考える。

(2) アイデアの理由（公開）

(2) アイデアの理由（公開）

次にアイデアを提案する理由（なぜ）について、それをサポートするデータを根拠として示しつつ2ページ以内で説明してください。ここではアイデアの必要性、効果を確認します。データとは、統計類などの数値データやアンケート・インタビュー・経験の記述、関連の計画、既存の施策などの定性データも広く含みます。データは出所を明らかにしてください。

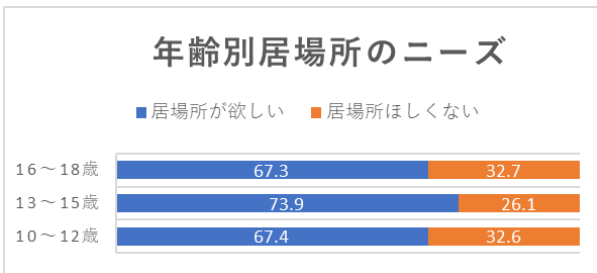
<このアイデアを提案する理由（なぜ）を書いていきます>

<先の（1）で書いた「何を」「誰が」「いつ」「どこで」「どのように」するというアイデアの内容を支えるための、「なぜ」このアイデアがいいのか実現したいのかの理由を上記のデータを示しつつわかりやすく書いていきます>

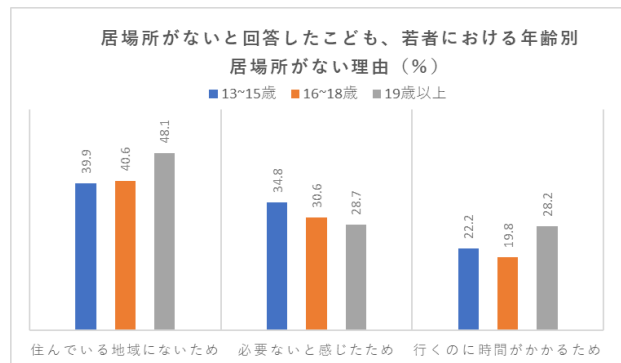
ここでは、1）実行委員会 asoBiBa を作る必要性および、2）asoBiBa にてイベントを行う必要性について述べる。

1) 実行委員会 asoBiBa を作る必要性

①全国的にこどもの居場所の需要がある



参考資料:こどもの居場所づくりに関する調査研究



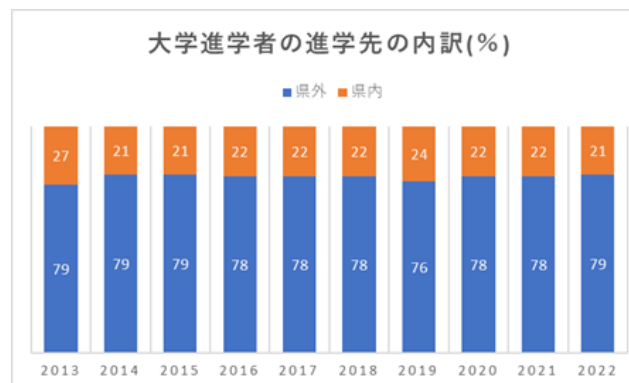
令和5年3月に内閣官房 子ども家庭庁設立準備室が全国の6歳～20歳を対象に実施した「こどもの居場所づくりに関する調査研究」によると、**13～18歳の半数以上が家庭や学校以外の居場所がほしい**と回答していることが示されており、全国的に見て中学、高校生の居場所の需要は非常に高いことは明らかである。これらのデータから、第3の居場所を求める中高生は多いが、実際は居場所となる施設が存在していないという現状が示唆される。

また、日本財団の「子ども第三の居場所」拠点一覧によると、2022年4月時点で、山形県は常設ケアモデル、学習・生活支援施設、コミュニティモデル施設などの子どもにとっての第三の居場所施設が1つもないことが報告されている。

今回提案する内容は施設を提供するわけではない。しかし、asoBiBaとしての活動が高校生にとっての新たな居場所的存在になるのではないかと考えた。

②なぜ大学生と高校生で活動するのか

高校生の将来の選択肢を広げるためである。右の表は、令和4年度学校基本調査卒業後の状況調査による山形県山形県内の高等学校（全日制課程・定時制課程）卒業者の大学等進学者のうちの県外進学者数とその割合をまとめたものである。これによると、2022年までの10年間の山形県からの大学進学者数は平均して78.2%、令和4年度では79%が県外へ進学していることがわかる。



参考資料：令和4年度学校基本調査卒業後の状況調査

山形県結果 平成10年度(pref.yamaqata.ip)

多くが県外の大学へ進学してしまい、**高校生の身近に大学進学者がおらず、県内の中高生と大学生との関わる機**

(2) アイデアの理由（公開）

会が少ない現状が示唆される。高校生にとって、**身近に将来のモデルとなりそうな年の近い先輩がいないことは、思い描ける将来の選択の狭さに影響する**と考えられる。故に、高校生と大学生とが関わりながら活動することで、高校生の将来への選択肢、可能性を広げる一助となると考えている。

2) asoBiBa にてイベントを行う必要性

③なぜイベントなのか

研修後、鶴岡市役所とミーティングを重ねていく中で、「**学生主体で行うこともまんなかのイベントがない**」という**問題を発見したから**である。きっかけは鶴岡市との MTG の中で頂いた「つるおか若者意識調査 2023」であった。この調査の中で最も目についたのは上記した「遊び場がない」という指摘である。しかし、私達の力では物理的な遊びの施設を作るのは不可能である。そのため、イベントという形で高校生を中心とした子どもたちが、友達と集まれるような遊び場を提供できれば、「遊び場がない」という課題を解決でき、同時に、地域の子供達との交流もでき、こどもまんなかのまちとなるのではないかと考えた。

〈商店街に着目した理由〉

夏に行った現地研修の際に、鶴岡の商店街は駅から離れていないのにもかかわらずシャッター街化しており、とても印象に残った。私たちが通う三軒茶屋駅近くにある商店街のように、老若男女に利用されるような活発な商店街にさせたいと考えた。また、鶴岡 TMO が令和 4 年 7 月に実施した「鶴岡市中心商店街及び日鶴岡市内商店街空き店舗調査結果」によると、中心商店街（12 商店街）の空き店舗数の合計は 44 となっており、深刻な問題となっていることがわかる。中でも鶴岡銀座商店街は空き店舗数が 17 店舗、空き店舗率が 19.5%と一番高くなっている。また、鶴岡駅から徒歩 20 分と車を持っていない学生でも行きやすい立地であることから、銀座商店街でのイベントを企画し、盛り上げたいと考えた。

④鶴岡には、遊び場を必要としている学生が多いため

右の図は、「つるおか若者意識調査 2023」にて、中高生から市への意見や要望の自由記述のうち多かったキーワードを上から並べたものである。これによると、**中高生どちらも最も多いキーワードは「遊び場」で、中高生 223 人が回答している**ことがわかる。圧倒的に「遊び場」を要望している学生が多いことが分かる。このデータから、遊び場が少なく、とても需要があることがわかる。そのため、イベントという形で高校生を中心とした子どもたちが友達と集まれるような遊び場を提供できれば、「遊び場がない」という課題を解決できると考えた。

(単位:人)

学校区分	中学生 回答者: 329人	高校生・高専生 回答者: 283人	合計 回答者: 612人
1 遊び場	120	103	223
2 買い物	71	34	105
3 交通(電車・バス)	26	39	65
4 都市計画(まちづくり・インフラ)	32	30	62
5 スポーツ	27	14	41
6 居場所(学校と自宅以外の場所)	11	25	36
7 デジタル環境	7	13	20
8 観光・シティプロモーション	13	3	16
9 図書館	8	6	14
10 仕事・賃金	5	7	12
11 子育て支援	6	6	12
12 環境保護	4	6	9
13 イベント	3	2	5
14 その他	50	43	93
コメント数合計	383	331	714

参考資料：つるおか若者意識調査 2023

アイデアを実現する主体、アイデアの実現に必要な資源（ヒト、モノ、カネ）の大まかな規模とその現実的な調達方法、アイデアの実現にいたる時間軸を含むプロセス、実現の制度的制約がある場合にはその解決策等、アイデア実現までの大まかな流れについて、2 ページ以内でご記入ください。ここでは実現可能性を確認します。

(2) アイデアの理由 (公開)

<アイデアに即した実現に向けての具体的な活動を上記のポイントに即して工夫して書いていきまず>

<以下のように分けて書いていきます>

1. 実現する主体

2. 実現に必要な資源 (ヒト、モノ、カネ) の大まかな規模とその現実的な調達方法

3. 実現にいたる時間軸を含むプロセス

1. 実現する主体

全体計画、環境整備	昭和女子大学鶴岡再発見！プロジェクト 2023 鶴岡市商工観光部商工課 / 鶴岡市東京事務所
企画、運営主体	鶴岡市在住の高校生、昭和女子大学鶴岡再発見！プロジェクト 2023
次年度準備	昭和女子大学鶴岡再発見！プロジェクト 2023

2. 実現に必要な資源 (ヒト、モノ、カネ) の大まかな規模とその現実的な調達方法

ヒト：昭和女子大学生、鶴岡市の高校生

【役割】昭和女子大学生と鶴岡市の高校生がイベントの企画、運営をする。鶴岡の高校生は地域のひととの繋がりを築く。

【方法】 高校生は作成したホームページにて公募する。

モノ：

ホームページ	実行委員募集のホームページを作成し、市役所や高校のホームページの方にリンクを載せてもらう。ホームページは委託せずに自分たちで作成するため、費用はかからない。
広報 (チラシ、SNS 用の広告)	実行委員募集のチラシや SNS (Instagram、Twitter) を作成し、市役所や高校のホームページや駅や商店街の施設内に貼っていただくことで、高校生や保護者の目に留まりやすい工夫をする。また、中高生にスマホや生徒に貸与されているタブレット端末への配信によるデジタル化を図りたい。市と連携し、市公式 LINE からのイベント情報発信も検討している。
ミーティングに必要なもの (Wi-Fi が完備の部屋、スクリーンまたはテレビ)	月に 2 回の全体ミーティングはオンラインであるため、鶴岡市の方では Wi-Fi 完備の部屋を借りる必要がある。それについては、地域のコミュニティセンター、NPO 明日のたね、商店街振興組合などにイベントを協同することを提案し、付随して場所を貸して頂るか相談する予定である。 昭和女子大学の学生は、大学内の会議室を予約して使用するため、使用料等はいらない。 イベントを開催するにあたり、宣伝や会場手配、備品などが必要である。イベントが未定であるため、必要になる費用は未定である。
イベント開催	イベントを開催するにあたり、宣伝や会場手配、備品などが必要である。イベントが未定であるため、必要になる費用は未定である。

カネ：必要費用は、イベントにかかる費用であるが、クラウドファンディングで集める予定である。

3. 実現にいたる時間軸を含むプロセス

2024 年

1 月	・高校生募集のためのホームページ作成、運営	第 0 段階 (事前準備)
-----	-----------------------	---------------

(2) アイデアの理由 (公開)

2月	<ul style="list-style-type: none"> ・鶴岡の高校教員へのミーティング ・地域のコミュニティセンター、NPO 明日のたね、商店街振興組合等場所を借用するお願い 	<p>高校生の募集のためのホームページ作成など、3月からの実行委員会のメンバー募集に向けての準備を行います。(2か月)</p>
3月	<ul style="list-style-type: none"> ・作成したサイトにて、鶴岡の高校生への募集開始 	<p>第1段階 (メンバーの決定)</p> <p>高校生メンバーをそれぞれ募集します。 4月末にメンバーの決定を行います。(2か月)</p>
4月	<ul style="list-style-type: none"> ・メンバーを募集、決定 	
5月	<ul style="list-style-type: none"> ・オンラインにてキックオフミーティング実施 	<p>第2段階 (イベントの企画、開催)</p> <p>5月にオンラインでのキックオフミーティングを行い、月に2回のオンラインミーティングを通して8月の夏休み期間のイベント開催に向けて手順を追ってイベントの企画と運営を行います。(4か月)</p>
6月	<ul style="list-style-type: none"> ・初回イベント企画案作成 	
7月	<ul style="list-style-type: none"> ・イベント実行に向けて計画を確認、実行(場所の確保、広報、協力したい企業や施設にお願い) 	
8月	<ul style="list-style-type: none"> ・イベント開催 	

○第0段階：まずプロジェクトメンバーが2月ごろに実行委員会の立ち上げを行い、ベースとなる場所づくりを行う。

○第1段階：3月～4月で、専用のホームページから高校生のメンバーを募集する。4月末に募集を終了し、メンバーを確定する。

○第2段階：プロジェクトメンバーと募集をかけて集めた高校生と大学生で本格的に実行委員会の運営を行い、鶴岡の子どもたちに向けたイベントの企画と実行に向けた計画を練る。5月にオンラインでのキックオフミーティングを行い、月に2回の大学生と高校生合同のオンラインミーティングと、各自の対面のミーティングを通してアイデア出しを行い、案の決定をする。また、この期間に鶴岡で活躍する様々な方をお願いをして、講師としてミーティングに来ていただき、イベントを決めるために鶴岡の知識を深め、企画のアイデアを見つけるための勉強会を開く。月に「実行までの流れ、協力先、開催時期や費用などを決め、初回の企画書を作成する。また、メンバーを「イベント会場の確保」「広報活動」「パンフレットや備品の手配」の3チームに分け、7月に班ごとに場所の確保、広報、協力したい企業や施設にお願いに伺うなど、イベント実行にむけて活動していく。

○第3段階：夏休みの期間を利用して8月に企画したイベントを開催する。このイベントでは参加者にアンケートを実施しフィードバックを得る。9月には実施したアンケートをもとに高校生とプロジェクトメンバーで活動の反省と振り返りをする。高校生の活動はここで終了となる。10～12月はプロジェクトメンバーのみの活動となる。次年度に向けてイベントの準備から開催について記した活動報告書を残すことで、次年度への引継ぎができるようにする。また、次年度の高校生の募集に向けて SNS などを利用して PR 活動も行う。

※第1段階から第3段階を次年度以降も繰り返していくことで、継続的な活動としていく。